

<全体分析>

試験時間 90 分

解答形式 論述式・記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・**変化なし**・やや難化・難化)

出題の特徴

- I・IIがアジア史中心, III・IVが欧米史中心という出題範囲の大きな枠組みに変化はない。
- II・IVの7割が近現代史からの出題であり, 4割弱が第二次世界大戦後からの出題であった。
- 小論述問題は, 昨年1問だけだったが, 今年はIIでの出題を含めて6問あった。

その他トピックス

- IIで東南アジア史のみからの出題があった。
- IIIの300字論述問題が, 大学受験科 基礎シリーズ『世界史 論述』第9・10講 [補] の論述問題とズバリの中。II Bの米中関係史は, 直前講習『京大世界史 第1講』II Bと直前講習『京大本番プレテスト』Iのいずれも, 「米中関係史」と言う同じテーマがズバリの中。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	論述	モンゴリアにおける遊牧国家の興亡	5世紀から12世紀のモンゴリアの歴史を, 遊牧国家の興亡を中心に説明する300字論述。問題文1行目から, 周辺に与えた影響にも言及する必要があるだろう。12世紀までなので, モンゴル帝国の成立は不要。	やや難
II	A 記述論述	17世紀以降のマレー世界	マレー世界へのオランダやイギリスの進出・植民地化から戦後の独立や現在の情勢までを扱った問題。(5)「倫理政策」は難しい。	標準
	B 記述	19世紀以降の米中関係	19世紀から現在の米中関係をテーマに, 中国近現代史を中心に問う。8割が20世紀史だが, それほど難しくはない。	標準
III	論述	イベリア半島の歴史	アンダルスをイベリア半島におけるイスラーム勢力の支配領域と定義した上で, アンダルスの成立から消滅に至るまでのこの半島における諸国家の興亡, それに伴う宗教的状況の変化, 文化の移転について説明する300字論述。アンダルスの成立と消滅が何を指すのか半断できると, 方向性が見えるだろう。	やや難
IV	A 記述論述	7世紀までのキプロス島史	問題文は7世紀までのキプロス島を扱っており, テーマ性は高いが, 設問は古代オリエント・ギリシア・ローマ史を中心としたオーソドックスな問題。(3)と(7)の小論述問題も書きやすいだろう。	標準
	B 記述論述	東西冷戦の緊張期と緩和期	第二次世界大戦後の東西冷戦が, 緊張期と緩和期を交互に繰り返したことをテーマに, 第二次世界大戦後の歴史を中心に問う問題。小論述が3問あり, (14)はいかに簡潔にまとめるかがポイント。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で, 当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

近年, 記述問題においてなかなか手強い問題が見られるようになってきているが, 全体としては高等学校の学習範囲を越えるものではないので, 教科書の内容を古代から現代まで「穴」のないように理解する学習を心掛けよう。そして, 複数出題される小論述問題を含め, 論述問題の出来が合否を左右するだけに, 普段の学習のなかで, 「歴史事象」の因果関係の理解に力点をおき, 「歴史の流れ」を正確に把握する学習を進めてほしい。また, 中国史やイスラーム史, 古代ギリシア・ローマ史など特定の地域・分野が毎年出題されているので, 過去問の研究を進めることは, 有効な学習対策となるだろう。